

# 平成25年度 医動物・種類同定検査のまとめ(10～3月)

医動物担当では、人の健康を害し、人に不快感を与える昆虫、ダニ、寄生虫等の試験・調査・研究を行っています。

その中の一つとして、市民、各区福祉保健センター、各市場検査所、事業者などの依頼を受け、昆虫類を中心とした種類同定検査を行っています。昆虫類の種類を同定することによって、発生源、発生時期、人に対する害などが分かるため、効果的な対策を立てることにつながります。平成25年10月から平成26年3月の種類同定検査件数は、12件でした。内訳は昆虫類11件(ハチ目6件、シミ目2件等)、その他の節足動物1件(クモ目1件)でした。

主な検査結果の詳細は以下のとおりです。

相談内容・発生状況等	写真 (状態、体色、大きさ)	同定結果	生態・その他
<p>自宅内で虫をみかける</p> <p>※同様の相談が1件あった</p>	 <p>雄有翅虫、黒色、約2mm</p>	<p>ヤマアリ亜科の雄有翅虫 (ハチ目)</p>	<p>本亜科は、温帯地方では大型で、活発に行動し、地上活動性が多い。 多くの種の営巣場所は地中である。</p>
<p>住宅内にアリがみられる(搬入検体には2種類のアリがみられた)</p>	<p>①</p>  <p>雌有翅虫、茶褐色、約8mm</p>	<p>①フタフシアリ亜科の雌有翅虫(ハチ目) ②ヤマアリ亜科の雄有翅虫(ハチ目)*</p> <p>* 検体の破損が激しいため写真不掲載</p>	<p>【結婚飛行について】 アリ類は決まった時期、無数の有翅虫(雌雄成虫)が、結婚飛行のため巣から飛び立つ。種類によって結婚飛行の時期は異なる。飛行を終えた雌雄成虫は、灯火、窓際に多数飛来し、不快害虫となることが多い。</p>
<p>木造住宅の広範囲に多数のアリがみられる</p>	 <p>働き蟻、褐色、約1.5mm</p>	<p>サクラアリ (ハチ目)</p>	<p>営巣場所は、日の当たる乾燥した石下、落葉層、倒木内などである。 有翅虫の飛出しは10～11月である。日本各地に分布する。</p>
<p>室内の壁の隙間で、アリを見かける</p>	 <p>働き蟻、茶褐色、約2mm</p>	<p>イエヒメアリ (ハチ目)</p>	<p>高断熱性の大型建築物や空調の完備した家屋に発生が見られる。巣は壁や家具の下などの1mmほどの隙間につくられる。 肉・魚・油脂などを好み食害する。</p>

相談内容・発生状況等	写真 (状態、体色、大きさ)	同定結果	生態・その他
<p>マンション内で虫がみられる</p> <p>※同様の相談が1件あった</p>	 <p>幼虫、銀白色、約3mm</p>	<p>シミ科の一種 (シミ目)</p>	<p>多くの種は野外に住み、腐食物を食べているが、一部の種類が家屋に住みつき、書籍や掛け軸、壁紙などを食害する。暗いところを好み、夜間活動性である。</p>
<p>施設内でハエが大量発生している</p>	 <p>成虫、黒褐色、約7mm</p>	<p>イエバエ (ハエ目)</p>	<p>幼虫の発生源は、糞、生ごみ類、動植物性の腐敗物である。屋内侵入性があり、衛生上重要な種である。 本種は、世界共通で、年に数世代を営む。</p>
<p>家屋内で虫がみられる</p>	 <p>頭部一部、黄褐色、約1.5mm</p>	<p>カメムシ目の頭部の一部 (カメムシ目)</p>	<p>体型は卵形、球形、長形で扁平なものなど多様である。 口器は完全な吸収型の口吻である。 食性も多様で、樹液、葉、茎、花、果実などを吸汁する。</p>
<p>たんす中の衣類に幼虫が付いていた</p>	 <p>幼虫、乳白色、約10mm</p>	<p>メイガ科の一種 (チョウ目)</p>	<p>本科のものは食品害虫として重要な種が多く、幼虫の食害状態は多様である。葉を巻くもの、茎や根および新梢、枝、幹に入り込むもの、果実や花に食入するもの、穀類や菓子類を食害するものなど種類は非常に多い。</p>
<p>家の畳上で蜘蛛を見つけた</p>	 <p>成体、黒褐色、約12mm</p>	<p>トタテグモ科の一種</p>	<p>地中や樹皮、岩の表面などに住居をつくる。背甲の中窩は、U字状である。日本では、2属4種が知られている。 本州以南に分布する。</p>

【 検査研究課 医動物担当 】